

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：中空知広域市町村圏組合取り組み事業数				指標の求め方：中空知広域市町村圏組合が取り組む事業数									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：—				指標の求め方：広域連携による成果が多岐にわたるため、成果指標の設定が困難であることから設定しない									
			第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期 総 合 計 画 計
			第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 力年 合 計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/事業)	計画値 14	14	14		14	14	14		14	14	14	14		
		実績値 14	14	14		14										
	成果指標 1 (単位/)	計画値 —	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
		実績値 —	—	—	—	—										
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				少し上がっている										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				少し上がっている										
		総合評価				良好である										
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 各種事業や共同 処理事務は順調 に実施され、広 域的な事業展開 が図られてい る。今後も第 4 次中空知ふるさと市町村圏計画 に基づき、継続 して広域連携を 進めるととも に、第 5 次計画 の策定を進め る。	自己分析： 各種事業や共同 処理事務は順調 に実施され、広 域的な事業展開 が図られてい る。今後も第 4 次中空知ふるさと市町村圏計画 に基づき、継続 して広域連携を 進める。	自己分析： 各種事業や共同 処理事務は順調 に実施され、広 域的な事業展開 が図られてい る。今後も第 4 次中空知ふるさと市町村圏計画 に基づき、継続 して広域連携を 進めるととも に、計画期間終 了後の共同処理 の取扱いについ て、検討を進め る。	判断理由： 中空知ふるさと市町村圏基金の 運用益が広域的 に有効活用され ているほか、各 種事業や共同処 理事務が継続し て実施されてい ることから、 「良好である」 と判断する。	自己分析： 各種事業や共同 処理事務は順調 に実施され、広 域的な事業展開 が図られてい る。現行の第 4 次ふるさと市町村圏計画の計画 期間が令和 8 年 度末までである ため、令和 7 年 度は計画期間終 了後の共同処理 の取扱い及び広 域圏の今後の在 り方について、 協議・検討を進 める。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：				
	今後の方向性					現状のまま継続										
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 5市5町のスケールメリットを活かした産業・観光振興事業を始めとする5事業及び交通災害共済事業及び交通遺児奨学事業を今後も継続して実施することで、圏域全体の活性化を図っていくことから、「現状のまま継続」と判断する。 なお、基金満期が令和8年であり、節目の時期を迎えることから、今後の当組合の在り方を含め検討を進める。				R8：				R10：						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）	指標名：連携事業数	指標の求め方：砂川市と連携市町が共生ビジョンに基づき取り組む連携事業数
成果指標 1（「成果」をもとに設定）	指標名：—	指標の求め方：広域連携による成果が多岐にわたるため、成果指標の設定が困難であることから設定しない

			第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期 総 合 計 画 計
			第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第 10 年次 (12年度)	実施 4 力年 合 計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/事業)	計画値 25	25	25	25	25	25	25		25	25	25	25		
			実績値 26	26	26		26									
		成果指標 1 (単位/)	計画値 —	—	—		—	—	—		—	—	—	—		
			実績値 —	—	—		—									
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				少し上がっている										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				少し上がっている										
		総合評価				良好である										
			自己分析： 連携事業については順調に実施されており、2月に改訂を行った共生ビジョンでは、学校給食事業を追加しており、連携事業数は26事業となった。また、「しごとの魅力発信と総合的な就業・移住支援」事業として実施している合同企業説明会は、参加する地域の学生や企業からの評判もよく、開催を望む声も大きいことから、今後も継続の必要があると考え。	自己分析： 連携事業については順調に実施されており、12月には共生ビジョン懇談会が開催され、2月に共生ビジョン改訂版を発行した。また、「しごとの魅力発信と総合的な就業・移住支援」事業として実施している合同企業説明会は、参加する地域の学生や企業からの評判もよく、開催を望む声も大きいことから、今後も継続の必要があると考え。	自己分析： 連携事業については順調に実施されており、11月には共生ビジョン懇談会が開催され、令和6年3月には第3期共生ビジョンを策定した。また、「しごとの魅力発信と総合的な就業・移住支援」事業として実施している合同企業説明会は、インフルエンザの流行により参加者は例年よりも少なかったものの、48名の高校生・短大生が参加し、地元企業を知る良い機会となった。参加する地域の学生や企業からの評判もよく、開催を望む声も大きいことから、今後も継続の必要があると考え。	判断理由： 活動指標の計画値を達成したほか、共生ビジョンに基づき、中心市と圏域の市町が連携した取り組みを進めていることから「良好である」と判断する。	自己分析： 連携事業については順調に実施されており、「しごとの魅力発信と総合的な就業・移住支援」事業として実施している合同企業説明会には122名の高校生が参加し、地元企業を知る良い機会となった。前年度はインフルエンザの流行により参加者数が減少したことから、例年より開催時期を早めた（12月⇒10月に変更）ところ、参加者数が増加した。今後も広域連携事業として圏域の就業情報等の発信に継続して取り組むほか、他の連携事業についても他市町と連携・協力しながら実施する。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
		今後の方向性				現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 人口減少に伴い、広域による市町連携の取り組みの必要性はより高まっており、圏域として中心市と構成市町が相互に役割分担し連携協力を行う定住自立圏の役割は重要であることから、「現状のまま継続」と判断する。				R8：				R10：					